

6月4日～10日は 歯の衛生週間です！

「6（む）4（し）」の語呂合わせに由来しています。

現在では、厚生労働省と文部科学省と日本歯科医師会が共同で6月4日～10日までを「歯の衛生週間」と制定しています。

なぜ虫歯になるの？

口の中には、たくさんの細菌がすんでいます。食べかすが細菌と混ざり合うと、菌が繁殖しやすい、ねばねばした歯垢（プラーク）ができます。この歯垢の中で増えた細菌が糖분을栄養にして酸を作り出し、歯のエナメル質を溶かしてしまうのです。むし歯は“歯の質、細菌、糖分、時間”の4つの要素が重なり合ったとき起こるといわれています。そのためには予防が重要なポイントになります。

1. むし歯になりやすい場所

歯と歯の間
歯と歯肉の境目
奥歯のかみ合わせ



2. 広がった歯ブラシを使わない

プラーク（ねばねばした歯垢）をきれいに落とすことができないだけでなく、歯肉を傷つけることがあります。広がってきた歯ブラシは早めに取り替えましょう！

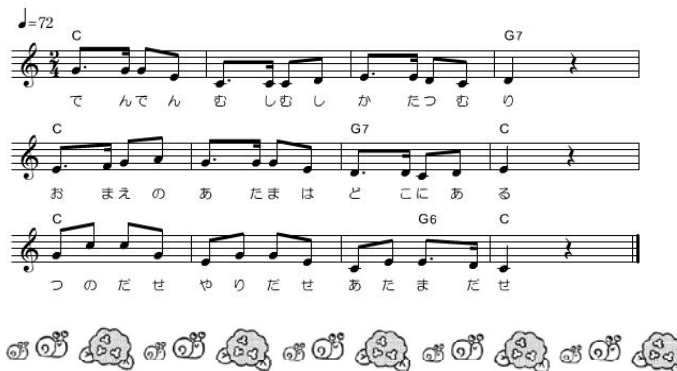
3. 歯ブラシは2本用意しましょう

歯磨きを上手にできないうちは、植毛部をかんですぐ駄目にしてしまいます。子どもが自分自身で磨く歯ブラシと大人が使う仕上げ磨き用の歯ブラシと2本用意すると効果的でしょう。

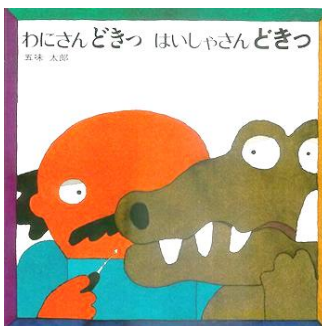
歌ってみよう

かたつむり

文部省唱歌



絵本の紹介



わにさんどきっ
はいしゃさんどきっ

作・絵：五味太郎
（偕成社）

同じセリフの言葉遊びが楽しい絵本です。歯医者さんが怖いわにと、わにが怖い歯医者さん。子どもたちもドキドキしながらわにさんを見守ります！

6月2日は「横浜開港記念日」

1858（安政5）年に日米修好通商条約が結ばれ、神奈川湊（現在の神奈川県神奈川本町付近）に開港することが決定しました。

当時の神奈川湊は東海道の宿場町として最大規模の都市。開港することによって、庶民が外国人と接することが多くなり、トラブルになることが予想できてしまふ…。そのため、幕府は急きょ当時貧しい小さな漁村の「横浜村」を開港場として選びました。現在の「象の鼻パーク」近辺が、かつての横浜港です。

今から155年前の1859（安政6）年6月2日、横浜は、幕府が前年アメリカ、オランダ、ロシア、イギリス、フランスと結んだ修好通商条約に基づいて、国際貿易港として開港し、今では370万人の横浜市となりました。

昔をしのいで、開港広場、開港資料館、大榎橋あたりを歩いてみましょう。JR・地下鉄ブルーライン関内駅下車横浜公園へ、日本人に解放された最初の公園です。横浜スタジアムがありますが、米軍占領中は「ルー・ゲーリック球場」と呼んでいました。みなとみらい線なら日本大通り下車、横浜公園と象の鼻を結ぶこの道は日本最初の西洋式道路です。開港資料館に立ち寄りましょう。中庭にペリー来航時の画にも描かれている「タマクスノキ」がありません。関東大震災で焼失しましたが、再び芽吹き美しく育っています。横浜大空襲後の開港記念日、横浜港こそハマツ子の生命です。

（井崎和夫）